

『森と湖に親しむ旬間 日向ダム湖畔の集い 2024』

「森と湖に親しむ旬間」は、森林や湖に触れ合うことで心身のリフレッシュをはかりつつ、ダム等のもつ役割について理解を深めていただくことを目的としており、毎年7月21日から7月31日までの期間内に、各地のダムを中心にイベントが開催されています。

三陸中部森林管理署では、7月27日（土）に開催された「日向ダム湖畔の集い 2024」に参加し、岩手県沿岸広域振興局農林部の皆さんと木工教室を行い、来場された参加者へ木工品の作成指導や釘打ちのサポートを行いました。

今回の木工教室では、「巣箱」・「椅子」・「本棚」・「プランター」・「ラック」の5種類の木工品を準備し、参加者の方にはこれらの中から気に入ったものを選んで作成していただきました。作成中は、子供が一人で作成しているところを見守っている親子や、一つの木工品を協力しながら作成する家族など、各自が思い思いに楽しく木工品を作成されていました。どの参加者も作成開始直後こそ、金づちの扱いに苦戦し、釘が斜めになってしまったり、釘ではなく板を押さえている指をたたいてしまったりするハプニングが発生していましたが、だんだんコツをつかんでいき、木工品が完成するころにはサポートしていた私たちよりも上手に金づちを扱えるようになっており大変驚きました。また、木工品完成後は皆さん笑顔で木工教室を後にされており、今回木工教室を行ってよかったなと感じました。

イベント当日は大雨で、当初予定されていたニジマスのつかみ取りが中止となり、ダム見学と木工教室のみでの開催となりましたが、その中でも約60名の来場者があり、木工教室にも絶え間なく参加者が訪れ、大盛況のうちにイベントを終えることが出来ました。今回の来場者の皆様がこのイベントを機に、ダムや森林・林業に対してより一層の興味を持っていただければ幸いです。



木工品の見本と作成キット



木工品作成中の様子



今回、一番人気のあった椅子